

ヨエル書 3：1～5
使徒言行録 2：1～13
「聖霊が降る」

【招詞】ヨハネによる福音書 4：23～24

【祈祷】【聖書】ヨエル書 3：1～5、使徒言行録 2：1～13

【説教】「聖霊が降る」

<ペンテコステ>

今日は、ペンテコステの礼拝です。ペンテコステとは、ギリシア語で「50」という意味ですが、日本語では今日の2：1にあったように、「五旬祭」と言います。ユダヤ教のお祭りである「過越祭」から50日後に行われるので、五旬祭です。

この五旬祭の日に、弟子たちの上に聖霊が降りました。そのことを覚えて、今日は礼拝を守ります。聖霊が降られた。これは、教会にとって、とても大切な出来事なのです。

「聖霊」。わたしたちは、創造主なる父なる神さま、救い主なる御子イエスさま、そして、聖霊なる神さま、三位一体の神さまを信じています。

しかし、実はこの「聖霊なる神さま」が、父なる神さまや、御子イエスさまに比べると、少しよく分からない、と思われる方は多いかも知れません。

でも実は、聖霊なる神さまは、わたしたちの最も近くで、今まさにこの時も、驚くほどダイナミックに働いて下さっているお方です。

なぜなら、聖霊のお働きがなければ、わたしたちが聖書の御言葉を神さまの御言葉として聞くことも、イエスさまが神の御子であり、わたしの救い主であると知ること、それを信じる信仰を持つことも、その救いを受け取ることも、礼拝を献げることも、ないからです。

聖霊なる神さまは、わたしたちを神さまの御言葉によって、救い主なるイエスさまへと導き、イエスさまが成し遂げて下さった神さまの救いの恵みに、わたしたちを与らせて下さるお方なのです。

聖霊の「霊」は、ギリシア語で「プネウマ」という言葉で、これは「風」という意味もあります。風は自由に動きますが、わたしたちは、風そのものをこの目で見る事が出来ません。でも、草木が揺れるのを見て、わたしたちは、風の確かな存在と、その動きや、力を知ることが出来ます。

同じように、聖霊なる神さまも、目には見えません。でも、わたしたちが神さま御言葉を聞き、信仰を与えられ、イエスさまを信じ、救われ、今ここで礼拝をしている。

これらの、わたしたちの現実に、具体的に起こっている信仰の出来事は、まさに、聖霊なる神さまの、豊かなお働きによるものなのです。

<イエスさまの昇天と、聖霊が降る約束>

さて、ペンテコステの出来事を見てみましょう。イエスさまが十字架に架かって死に、三日目に復活され、天に上げられた後に、起こった出来事です。

イエスさまは、父なる神さまの、わたしたちのための救いのご計画を、すべて成し遂げて下さいました。イエスさまは、神の御子でありながら、まことの人となってこの世に来られ、わたしたちの罪のために十字架に架かって死に、ご自分の命をもって、わたしたちの罪の負債を、すべて支払って下さいました。

そして、父なる神さまは、イエスさまを死者の中から復活させられました。そのことによって、確かに、イエスさまにおいて、わたしたちの罪の贖いが成し遂げられたこと。そして、このイエスさまの救いの恵みを信じ、心から受け取るならば、わたしたちは罪を赦されて、永遠の命に与ることが出来るということを、明らかに示して下さいました。

そして、死者の中から、栄光の体をもって復活し、生きておられるイエスさまは、復活なさってから 40 日間、弟子たちに姿を現し、まことに生きておられることを証しされた後、天に上げられました。

使徒言行録の 1:7~11 には、このイエスさまの昇天のことが、次のように語られています。「イエスは言われた。『父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。』こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。『ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。』」

1:9 には、「イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった」とありました。

イエスさまが上げられた「天」というのは、聖書においては、この地上の時間や空間を超えている、神さまがおられるところを意味します。

わたしたちは、生きて、肉体をもって、この世に存在する限りは、時間と空間に制約されています。復活のイエスさまも、生きておられ、栄光の体をもっておられますから、地上におられる間は、ある特定の時代、特定の場所におられました。

しかし、イエスさまは、そこからこの地上を離れ、時間と空間を超えた、「天」に上げられたのです。それはつまり、それ以降は、弟子たちも、そして今の時代に生きるわたしたちも、未来の人々も、イエスさまが再び地上に来られる終わりの日まで、もうそのお姿を直接目で見ることが出来ないし、その御声を直接耳で聞くことも出来ない、ということなのです。

しかし、イエスさまは、天に上げられる直前に、弟子たちに約束をなさいました。1:8にはこうあります。「あなたがたに聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」。それは、「あなたがたに聖霊が降る」という約束でした。

そして、ペンテコステの日。ちょうど、過越祭の時期に起こったイエスさまの復活から、50日後の五旬祭の日。今日の聖書にあったように、天に上げられたイエスさまが約束なされた通り、弟子たちに、聖霊が降ったのです。

<聖霊が降る>

それは、不思議な出来事でした。今日の、2:1~3までを、もう一度お読みします。

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」

五旬祭の日、使徒たち、そしてイエスさまを信じて従ってきた人々は、一同が一つになって集まっていた。イエスさまが天に上げられた後、ずっとお祈りをして、約束の聖霊を待っていたのです。2節には「彼らが座っていた家中に」と書かれているので、みんな一緒に家の中にいて、座っていたのでしょう。

そこに、「突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた」とあります。それは突然やってきました。

神さまが御業を行われるのは、人間の望む時や、都合の良い時ではありません。神さまは、ご自身が定められた時に、ご自身の御業を行われるのです。

まさにその時が来て、「突然、激しい風が吹いてくるような音」が天から聞こえました。

「激しい風」と聞いて、わたしたちは台風の様子を思い出すかも知れません。強い風の唸り声のような音。風が戸や窓をたたき激しい物音。家が飛ばされるのではないかと思うような風の音が思い起こされます。

でもこれは、風の音ではありません。風が吹いてくる「ような」音とあるように、この天からの音は、聖霊が来られる「しるし」として聞こえた音です。

風は、旧約聖書の時代から、神の霊がおられることを表す時に用いられる表現です。聖霊なる神さまは、はっきりと一同に、ご自分が来られたことを知らされたのです。

そして、耳で聞こえるしるしの次は、目で見えるしるしです。「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」。これはちょっと想像するのが難しい光景ですが、火や、炎もまた、神さまの臨在のしるしとして、旧約聖書に登場します。

人間は、聖霊なる神さまを、肉体の目で見ることにはできません。しかし、ペンテコステの日には、神さまが確かにそこにおられ、祈っている一同の上に働かれ、聖霊が一人一人に注がれる、ということが、耳で聞いて、目で見、知ることが出来る仕方で、弟子たちにはっきりと示されたのです。

こうして、イエスさまが天に上げられた後、このペンテコステの日に、祈り求めていた弟子たち一同のもとに、聖霊なる神さまが降って来て下さったのです。

<霊が語らせる>

さて、そうすると、驚くべきことが起こりました。4節には、「すると、一同は聖霊に満たされ、『霊』が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した」とあります。

この「ほかの国々の『言葉』」とある「言葉」という単語は、3節の「炎のような『舌』」の、「舌」と同じ単語です。「舌」と「言葉」。炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人にとどまり、「霊」は弟子たちに「ほかの国々の言葉」を語らせました。聖霊は、人に「言葉」を与える霊なのです。

一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で語り出しました。その日は五旬祭でしたから、エルサレムにはたくさんの国々から、祭りに参加するために、大勢の人々が集まってきていました。

5～6節には「さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった」とありました。

それは、あっけにとられるでしょう。物音だけでも、たぶんとてもびっくりしたのに、来てみると、ガリラヤの田舎町の人たちが、遠い自分の国の、外国の言葉を話しているのを聞いたのです。

ですから、人々は驚き怪しみました。7節以下にはこうあります。「人々は驚き怪しんでいた。『話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちはめいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。』」

そして続きには、そこに集まった人々が、どのような国からやってきたかが述べられています。パルティア、メディア、エラム…と始まって、ローマ、そしてクレタ、アラビアまで。

これらの国々は、当時の人々に知られていた、世界のほとんどすべての国々です。当時の人々は、今のわたしたちのように世界地図を持っているわけではありませんでした。しかし、エルサレムには、当時の人が知りうる限りの、全世界のあらゆる国々の人々が集まっていたのです。それは5節で、「天下のあらゆる国」と表現されていることから分かります。

そして、その世界中の人々が、皆自分の、それぞれの国の言葉を聞いた、というのです。

しかし、ここで聖書が語っているのは、聖霊が降ると、知らない外国語を話せる奇跡が起きる、ということではありません。

ここで最も大切なことは、聖霊を受けた弟子たちが、色んな国の、みんなバラバラの言葉で話したことは、同じ一つのことだった、ということです。あらゆる国の人々が、それぞれ自分の故郷の言葉で聞いたのは、同じ一つのことだった、ということです。

それは 11 節で、おどろいた人々が「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」と言ったように。色々な言葉で語られ、多くの人々の聞かれたことは。一つの「神さまの偉大な業」について。つまり、イエスさまの十字架と復活による、救いの出来事についてでした。

イエスさまの十字架の御業によって、神さまが罪を赦して下さる。イエスさまこそ、神の御子であり、まことの救い主である。その神さまの偉大な一つのことを、弟子たちが色々な国の言葉で語り、それをあらゆる国々の、世界中から来た人々が、自分がわかる言葉で、聞いたのです。

このことが現わしているのは、聖霊によって、神さまの御言葉が、世界のすべての人に向けて語られ、そしてすべての人に聞かれる、ということです。イエスさまの救いの出来事が、どの国の、どこにいる人にも届けられる、ということです。

聖霊なる神さまは、聖霊を受けた人に、イエスさまの救いの御業を語る言葉を与えられます。そして、たくさんの人に、このイエスさまの救いの出来事を届けて下さいます。

そして、世界中の一人一人を、天におられるイエスさまの救いの恵みへと、招いて下さるのです。

<イエスさまへと導く聖霊>

今、イエスさまの時代から 2000 年以上も経ち、イエスさまがおられたエルサレムから、こんなにも離れた宮崎の地で。まさに当時とは、時間も、空間も異なる、この場所で。今、わたしたちが、この教会に召し集められ、イエスさまの救いの出来事を、聖書の御言葉を通して聞き、信じる信仰を与えられ、救いを受け取り、神さまを礼拝しているのは。まさに、このペンテコステの聖霊が、このわたしたちの群れにも降って、力強く働いて下さっているからです。わたしたちもまた、聖霊に満たされているからです。

今日も、この教会の礼拝で、聖霊なる神さまが働いて下さり、わたしたちに霊を豊かに注いで下さるから。わたしたちは、イエスさまの救いの出来事を、神さまの偉大な業を、みんなで共に聞くことが出来るのです。

そして、聖霊なる神さまは、神の偉大な業、イエスさまの十字架と復活の福音をわたしたちに聞かせるだけでなく。天におられるイエスさまと、地上にいるわたしたちを、まことに出会わせて下さり、この方により頼む心を与えて下さり、イエスさまの恵みを、神さまの愛を、喜んで受け取る者とならせて下さいます。

そして、聖霊なる神さまは、洗礼によって、天におられるイエスさまと、わたしたちを、一つに結び合わせて下さいます。分かち難く、一つにして下さいます。そして、イエスさまの恵みをすべて、わたしのものとさせて下さるのです。

聖霊なる神さまによって。わたしたちは、どの時代に生きていても。世界のどこに住んでいても。みんな、神の偉大な御業を聞くことができる。

そして、天におられ、復活して、今も生きておられるイエスさまに、出会うことができる。

そして、聖霊によって、この天におられる、復活のイエスさまと一つに結ばれて、救われて、新しくされて、いつでも、どこでも、ひと時も離れることなく、イエスさまと共に生きる者とされるのです。

今日はこの後、聖餐の恵みにも与ります。聖餐もまた、聖霊なる神さまによって、わたしたちをまことの信仰に生かし、強めるために、与えて下さるものです。

聖餐は、目に見えるパンと杯を通して、わたしたちが、イエスさまの十字架で裂かれた肉と血によって、罪を赦され、生かされ、養われ、強められているという、目に見えない恵みを、この体と心で、深く味わい知るためのものです。そうして、まさにその時に、天におられるイエスさまと一つにされていることを、確かにされるためのものです。

洗礼や聖餐は、聖書から語られる、「聞く神の言葉」に対して、「見える神の言葉」と言われます。聖餐においても、神さまの御言葉を、わたしたちに届けて下さり、教えて下さり、しっかりと受け取らせて下さる、聖霊なる神さまの、力強いお働きがあるのです。

<聖霊に満たされて>

さて、今日の聖書の最後の13節には、人々の驚きの中で、「しかし、『あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ』と言って、あざける者もいた」とありました。「神の偉大な業」を聞いて、あざける者もいた。これは、少しショックな記事かも知れません

しかし、弟子たちが語った「神の偉大な業」、つまり神の御子が、まことの人となり、わたしの罪のために死んで下さったこと。あの十字架で軽蔑され、苦しまれ、殺された方が、わたしの救い主であること。それを信じることは、実際、わたしたちの常識からいえば、とても困難なこと、愚かに思えることに、違いありません。

しかし、だからこそ、わたしたちには、聖霊なる神さまが必要なのです。

神さまは、罪人のわたしたちに、このイエスさまの救いの恵みを、受け取るだけで良いと言われました。ただ、神さまの愛と恵みによって与えられる、このあまりにも大きなプレゼントを、わたしたちは、何を差し出すこともなく、何を引き換えにすることもなく、ただ空っぽの両手を差し出して、受け取れば良い、と言って下さったのです。それが、信仰によってのみ救われる、ということです。

ところが、このプレゼントは、わたしたちの思いを超えた、想像を超えた、常識を超えた、あまりにも大きな神さまの愛と、恵みによるプレゼントなので、わたしたちは素直に受け取ることさえ出来ないのです。

しかし、聖霊なる神さまが、それを可能にして下さいます。わたしたちは、恵みを受け取るということさえ、神さまの助けと導きが必要なのです。

聖霊なる神さまは、わたしたちに、神さまの愛について、イエスさまの救いの御業について、差し出されている罪の赦しについて、与えられている約束について。わたしたちに教え、

確信を与え、受け止めさせて下さいます。

わたしたちが、救いの恵みを受け取り、イエスさまを、わたしの主であると、わたしの救い主であると告白する時、そこには聖霊なる神さまが、わたしの内に働いておられるのです。

そうです。それが、聖霊の御力です。人があざけるような、イエスさまの十字架の救いを、わたしの救いとして信じる事が出来ること。このような罪人のわたしが、信仰を与えられ、救われ、神さまの子どもとされること。神さまを知らなかった者が、神さまを知り、神さまから離れていた者が、この方を礼拝する者となること。愛することのできなかつた者が、神さまに愛されて、隣人を愛そうとする者になること。これらのことは、知らない外国語を話し出す奇跡よりも、はるかに驚くべき奇跡ではないでしょうか。

天におられるイエスさまが、地上を歩む、弱い、疑い深い、罪深いこのわたしと、片時も離れず共にいて下さると知っていること。罪にも死にも打ち勝たれた、その勝利の御手で、今この時も、わたしを守り、支え、導いて下さっている。その確信を与えられていること。それは、どれほど大きな奇跡でしょうか。

全能の創造主なる神さまを、親しく父と呼んで、このお方に、助けを、慰めを、癒しを、救いを求めて、祈ることが出来る。これは、どれほど驚くべき奇跡でしょうか。

聖霊なる神さまは、わたしたちの内に働いて、そのような、すべての恵みに与らせて下さいます。そして、ここに集められているお一人お一人は、父、子、聖霊なる神さまによって、今まさにそのような、奇跡のような恵みに与っているのです。

【お祈り】

天の父なる神さま 御名を賛美いたします。

御子イエスさまの、十字架と復活の救いの御業を感謝いたします。また、イエスさまの昇天の後に、聖霊をお遣わし下さり、ありがとうございます。

聖霊なる神さま、いつもわたしたちの内に霊を満たし、わたしたちをイエスさまへと向けさせて下さい。イエスさまの恵みを、大切に、しっかりと受け止めさせて下さい。そして、わたしたちに与えて下さった信仰を、初めから、終わりの日に至るまで、どうか導き、守り、強め、励まして下さい。

そしてわたしたちが、心からの悔い改めと、深い感謝と喜びをもって、与えられた日々を歩いていくことが出来ますように。弱く、罪深いわたしたちの心を、御言葉によって新しくし、神さまの御心に従う力をもまた、お与え下さいますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 3 4 6 「来たれ聖霊よ」

【信仰告白】 使徒信条

【聖餐】

【讚美歌】 7 2 「まごころもて」

【献金】 【主の祈り】

【讚美歌】 2 4 「たたえよ、主の民」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン